

2022年6月7日掲載 輸送経済新聞

静岡支店で初の協業

第一貨物×トナミ運輸

施設共用し共配展開

第一貨物（本社・山形市、米田総一郎社長）とトナミ運輸（同・富山県高岡市、絹貫勝介社長）は13日、初の協業を開始する。第一貨物静岡支店（静岡市）を2社で共同利用し、双方の配送効率化と自社戦力の稼働効率向上を図る。

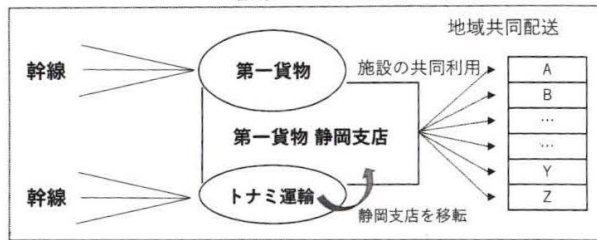
協業に向け、トナミ運輸は静岡市駿河区手越原にある静岡支店を、約4ギガ離れた同区小坂の第一貨物静岡支店（2010年しゅん工）を賃借する形で移転。1階の特積みホーム30031平方メートルのうち、3分の1の3区画をトナミ運輸が利用し、3分の2の6区画を引き続き第一貨物が使う。双方の本業スペースは区分けし、営業情

報に関して厳格な隔離措置を取ること、法令順守を徹底する。

ホームの共用で、第一貨物は稼働率の向上が図られ、トナミ運輸には老朽化・狭あい化が課題だった現支店の1.5倍となるホーム増床につながる。

2社による地域共同配送も展開する。それぞれ

協業のイメージ



の静岡支店が受け持つていた配送エリアを重なる

互補完も視野に入れる。今後は、幹線輸送の相互補完も視野に入れる。

ことで、1台当たりの配達個数を増やし、2社の車両の稼働効率を高めるイメージだ。共配で相互に生まれた余力を内製化に振り向けることも想定し、効率化だけではなく、収益力を高め、配送品質を高める狙いがある。対象エリアや分担など具体的な内容は2社で協議中。

互補完も視野

さらに、集荷・配送に関するITシステムの共用化などで2社の経営資源を最大限活用。互いの課題を補完し合い、強みを共有することで、サービスの維持と持続的な成長を目指す。温室効果ガスの排出量削減や働き方

改革にも取り組み、SDGs（持続可能な開発目標）が達成される社会の実現に注力する考え。

今回の協業は、トナミホールディングス（本社・富山県高岡市、絹貫勝介社長）とティー・ティール・ホールディングス（同・山形市、武藤幸規社長）が昨年2月に結んだ資本業務提携の一環。働き方改革に関わる環境整備、サプライチェーンの構造変化に対応するための、相互拠点の有効活用、輸送の効率化など直面する課題解決の一助として、協業に踏み切る。（水谷 周平）